

我等が渡米する迄

渡米は物見遊山でない

野球部部長 長澤安治

私達のチームが十六年振りの優勝と、各方面の方々から私達に對して祝電、或は感激の辭を賜つて誠に赤面の至りに堪へない次第です。優勝するまでの苦心を語れと風々御話もあるのですが、野球部があつて、六大學に加盟して春秋の試合を行つて居る以上は、誰れも強いて敗戦を好んでするものはないでせう。

昨秋私達は幸運に恵れて優勝の立場に置かれたものでしたが、其迄での経過に就いて申しますと、正直の處リーグの優勝と言ふことなど目指して進む心は毛頭なかつたといふのは決して偽りではなくせめてAクラスにでも入れよばい



長澤安治部長と野球部員ら

夏の滿洲遠征で稍自信を持つて中野へ歸つて、日々練習に怠りない頃は、未だ不安も伴つて居たのですが、東城とか東京俱樂部の試合を終つた頃、Aクラスに入り得ればの程度で、愈々聯盟戦が始つて、早明には善戦して居たものの、王座を窺ふやうな大それた考へを抱くことはなく進んで行つたものでしたが、其中に早明慶とA

クラスとの對戦にも御承知の通りきまつて行き、これ先づ從來のBクラスだけは免れたと思ふ頃、立教、帝大の試合の結果から見るとこの調子でつたら優勝が出来るぞと其から俄然リーグの優勝と言ふことに全く傾注して猛進努力したのが實際の話なので、處が幸

ら、其の裏面に渡米各地を見物して歩くといつた譯柄ではない、物見遊山ではなく、これまでも渡米から歸つての試合には敗れたといふ話もあることであるから、其處このないやうにと轉戦中充分の努力もし、我國現在行詰つて居る野球界に一進路を持ち來たすべく研究もして來る覺悟を固めて、出發すると云ふ譯なのです。

法政チームの二年動績の主將なる長澤安治君は信州長野商業の出身である。法政入部後は左翼にて盛んに活躍してゐたが最近餘り戦線裡には出られない。帷幄の人として人格の高潔と勇氣は法政の唱詞には與つて力があつた。

合宿内に於ても信頼は厚い。渡米を控へた法政の主將として申分なく、長澤主將は文筆の幽玄な事に於ても譽れは高い。全く智雄兼備の主將と言ふべきである。

新興の専修大學野球部

部の由来

専修大學の野球部も、相當の歴史をもつてはゐるが、好指導者になかつた爲めに、久しく沈滞期にありやよともすれば其名をすら忘れられてゐた。

然るに、最近道家齋一郎氏を理事に推戴してから、各種の改革が行はれ、俄然勃興の氣運にむいてきた。道家氏は、施設の一端として、先づ第一に野球部の大改造を企てた。學長法學博士坂谷男爵も兩手をあけてこの舉を賛成せられた。法學士辯護士吉田衛君が部長に、前慶應投手石川眞良氏が監督に任命され、吉田部長は年少氣鋭の士、身を犠牲にして部の發展に努力してゐる。其効果はあらはれて、昨夏北海道遠征に際しては

名にしおふ北門の雄大洋クラブを撃破し、秋季には慶應新入と大接戦の後之を一蹴した。かくして、「新興専修」の名は斯界に轟きわたるに至つた。

専修の現状

専修大學は東京市神田今川小路にある。學長坂谷男爵と理事道家氏の指導直しきを見て、學運隆々其發達の速度の大なること斯界に於ける奇蹟とさへ稱せられてゐる。校運の隆々たるに比例して、諸運動部も活氣を以てし、特に野球部は旭日昇天の勢いである。近く新大學リーグが組織せらるゝるとき、其活躍を大いに期待せられてゐる。

野球部は、川崎市外水清寺多摩川畔に合宿とグラウンドとを設け部員三十有五名、和氣アイアイと

して練習にいそんでゐる。新學期には新入部生も甚だ多いと、時は熟してきた。日大、國大、中央、専修四大學の新大學リーグの組織は完成せられんとしてゐる。そして、東京市が計畫してゐる十萬人を收容しうる芝浦の大球場もこれを動機として實現せんとしてゐる新大學リーグの組織、其誕生は、我が球界に貢獻する所大であらう。

以下は記者と吉田部長の對話の一節である。

記「この夏どこへ遠征なさいますか。」
吉「この夏は、武者修行の意味から、是非滿洲地方へ出かけるべく、今から準備をすゝめてゐます。又、冬の休を利用して臺灣へ遠征しやうかと考へてゐます。

新専修大學では、中野野球場のため、各種の大會へ、阪谷杯を贈呈することゝなつた。直接専修大學、或は我が野球部社中送られた。寄査の上適當と認められたものへ贈呈する由。



理事 齋家 一 郎



大學長 阪谷 男 爵



野球部長 田中 吉 教 授